

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

お車に関することや、その他のアドバイスは下記の表示を使って記載しています。

アドバイス

お車のために守っていただきたいことや、安全のために守っていただきたいこと。

(車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイス、安全のためのアドバイス、異常事態の処置方法を記載しています)

知識

知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なこと。

❖: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

目次

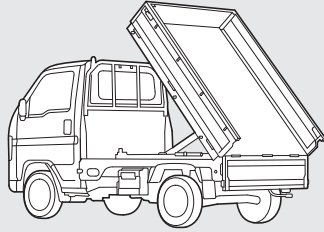
各タイプの特徴.....	2	万ーの場合には	
各部の名称.....	3	非常時のけん引.....	30
装備の使いかた		ダンプ操作ができないとき、プラットフォーム	
荷台ゲート.....	5	が昇降できないとき.....	30
ダンプ装置使用時の注意.....	9	資料	
ダンプ装置の使いかた.....	11	仕様.....	32
リフター装置使用時の注意.....	14		
リフター装置の使いかた.....	16		
安全装備.....	21		
点検整備について			
点検整備時の注意点.....	24		
点検整備方式.....	25		

各タイプの特徴

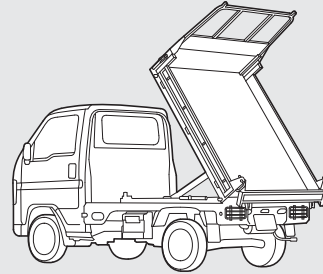
各タイプの特徴

アクティダンプ

ダンプジュニア

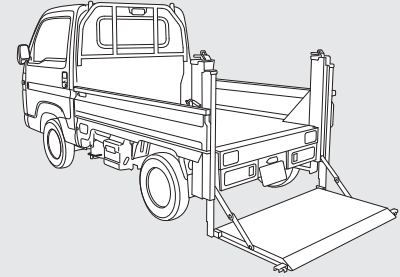


浅底

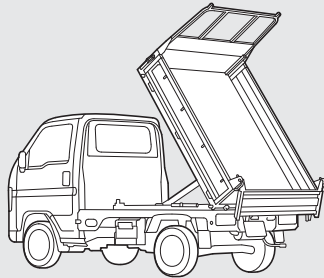


アクティリフター

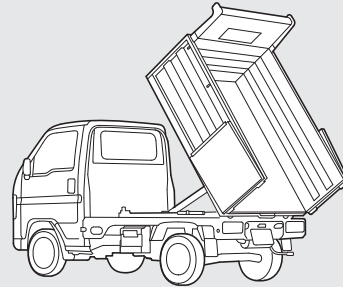
リフターV



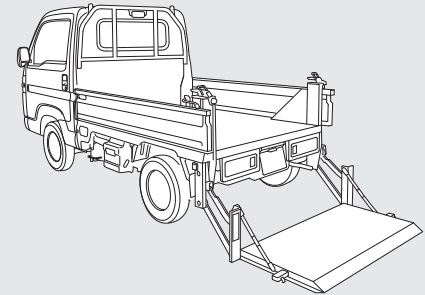
フレーム鳥居



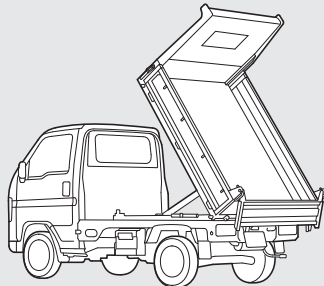
清掃



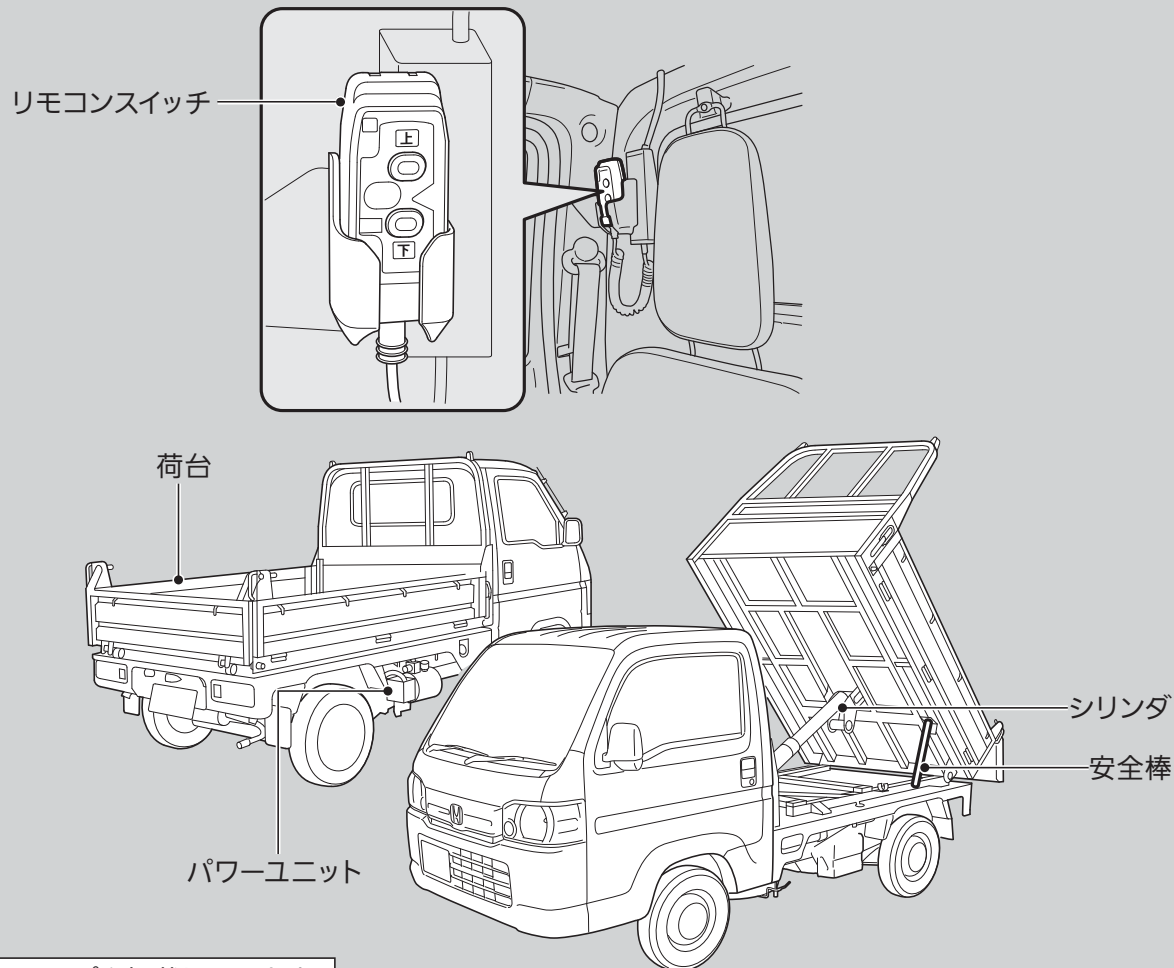
リフターW



大型鳥居

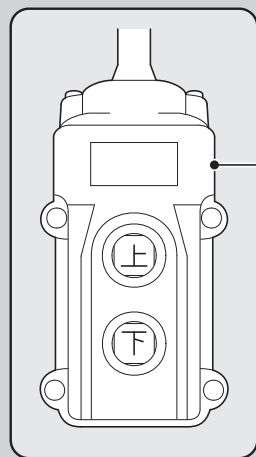


アクティダンプ

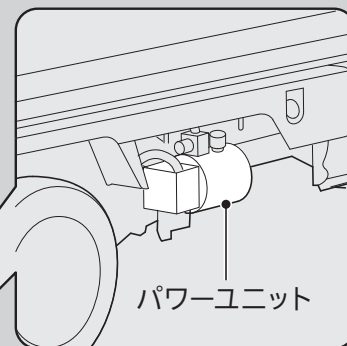


イラストはフレーム鳥居タイプを掲載しています。

アクティリフター



リモコンスイッチ



パワーユニット

リモコンスイッチボックス

フレーム

プラットフォーム

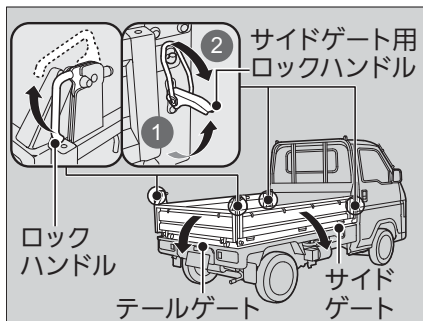
イラストはリフターV(垂直式)タイプを掲載しています。

荷台ゲート

アクティダンプ

倒しかた

フレーム鳥居、大型鳥居、浅底



■テールゲート

1. ロックハンドルを「カチッ」と音がするまで上げる。
2. ゲートを手で支えて静かに倒す。

■サイドゲート

1. ロックハンドルを起こしてフックをツメから外す。
2. ゲートを手で支えて静かに倒す。

※荷台ゲート

⚠ 注意

エンジンをかけた状態で荷物の積み降ろしをするときは、排気管の後方に立たないようにする。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

※倒しかた

⚠ 注意

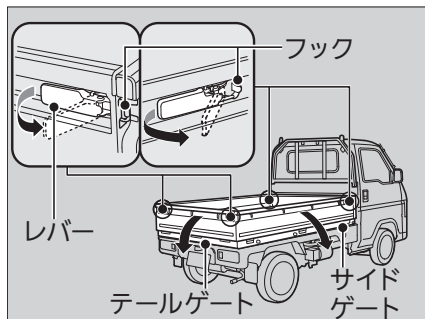
ゲートを倒したまま走行しない。

ゲートがバタついたり、尾灯や制動灯などが後方から確認できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

道路上でテールゲートを開いて作業を行う場合は、停止表示板などを設置する。

テールゲートを開いたときに、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯や尾灯などが、後方の車両から確認できないおそれがあります。

ダンプジュニア



■テールゲート

1. レバーを引く。
▶ フックが外れます。
2. ゲートを手で支えて静かに倒す。

■サイドゲート

テールゲートと同じ要領で倒します。

戻しかた

フレーム鳥居、大型鳥居、浅底、ダンプジュニア

戻すときは逆の手順で行います。

フレーム鳥居、大型鳥居、浅底

⚠ 注意

荷台が上がっているときはロックハンドルを解除しない。

テールゲートが落下し、けがをするおそれがあります。

ダンプジュニア

⚠ 注意

荷台が上がっているときはゲートを倒さない。

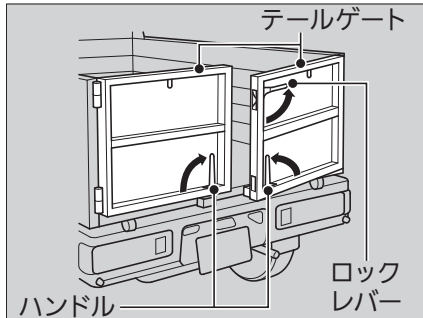
急にゲートが倒れて、体にぶつかりけがをするおそれがあります。

知識

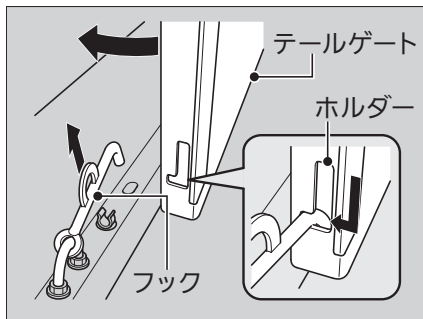
積荷を降ろすために荷台をあげる場合はテールゲートを倒してから行ってください。

開けかた

清掃



1. テールゲート上部のロックレバーを起こす。
2. 下部のハンドルを上げて左右のゲートを開く。



3. フックをホルダーに引っかける。

開けかた

⚠ 注意

ゲートを開いたまま走行しない。

ゲートを開いたまま走行すると、ゲートがバタついて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

荷台が上がっているときはゲートを開けない。

急にゲートが開いて、体にぶつかりけがをするおそれがあります。

フックを使わないときは、必ずクランプに納める。

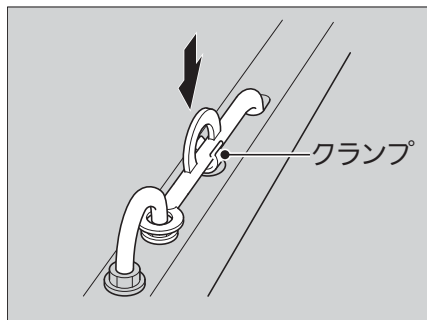
フックが固定されていないと、歩行者に引っかかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

積荷を降ろすために荷台を上げる場合はテールゲートを開けてフックをホルダーに引っかけてから行ってください。

■ 閉めかた

清掃



左側のゲートを先に閉めます。外したフックはクランプに納めます。

ダンプ装置使用時の注意

アクティダンプ

ダンプ装置の操作を誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあります。次のことをお守りください。

- 周囲および荷台上の安全を十分確認してから行う
 - 荷台とボディの間に指などはさまないように十分注意する
 - お子さまには操作させない
 - ダンプ操作時は機構部に近づかない
 - ▶ はさまれたりするおそれがあります。
 - 荷台が上がっているときは、荷台の下には入らない
 - ▶ 思わぬ事故の原因となります。点検や整備などで荷台の下に入る場合は、必ず空荷の状態で安全棒や安全支柱を使用してください。
- 安全装備 P.21
- 荷台を上げたままの急発進 / 急ブレーキは絶対にしない
 - ▶ ダンプ機構に悪影響を与えるばかりでなく、車両の寿命を低下させる原因や思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - 荷台を上げたまま走行しない
 - ▶ 架橋等に当たるおそれがあります。
 - ダンプ操作はエンジンをかけた状態で行う
 - ▶ エンジンをかけないで行うと、バッテリー上がりの原因となります。
 - 片荷はしない
 - ▶ 走行やダンプ操作に安全性を欠き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 場所について

車が横転するおそれがあるため、次の場所での操作は絶対に行わないでください。

- 地面が左右に傾斜している場所
- 不整地
- 軟弱な地盤

■ 積載物について

土砂を積載できるのは浅底タイプのみです。

また、積載物は最大積載量をこえないようにしてください。土砂は比重が高く最大積載量をこえやすいので特に注意してください。

ダンプ装置の使いかた

アクティダンプ

エンジンスイッチが **I** または **II** のときに使えます。

ダンプ機構は、バッテリーを原動力に使用します。バッテリーの劣化を防ぐため、ダンプ操作はエンジンをかけた状態で行ってください。

上げかた

共通操作

1. パーキングブレーキをかける。

マニュアル車

2. チェンジレバーを N (ニュートラル) に入れる。

オートマチック車

2. セレクトレバーを **P** に入れる。

共通操作

3. エンジンを始動する。

ダンプジュニア、清掃

4. 必要に応じてテールゲートを倒す、または開く。

ダンプ装置の使いかた

ダンプジュニア、清掃

注意

積載したまま荷台ゲートを閉じた状態では、ダンプ操作をしない。

積載したまま荷台ゲートを閉じた状態でのダンプ操作は、構造や機構に悪影響を与えます。

上げかた

注意

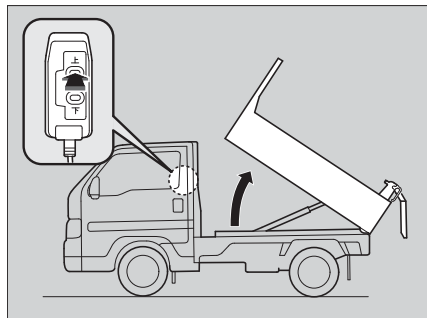
荷台を上げた状態のときは、絶対に荷台の下に入らない。

思わぬ事故をまねくおそれがあります。安全棒や安全支柱の有無にかかわらず絶対に入らないでください。

フレーム鳥居、大型鳥居、浅底

注意

テールゲートを倒したまま荷台を上げない。 テールゲートを倒したまま荷台を上げるとテールゲートが落下し、けがをするおそれがあります。



共通操作

5. リモコンスイッチの「上」を押す。
- ▶ 押している間、上昇します。途中で手を離せばその場で停止させることができます。

※ 上げかた

知識

荷台がいっぱいまで上昇した後は、「上」を押し続けしないでください。

「上」を押しても荷台が上がらない場合は、積載の量や片荷になっていないかなどを点検してください。

駐車時は荷台を上げたまま放置しないでください。

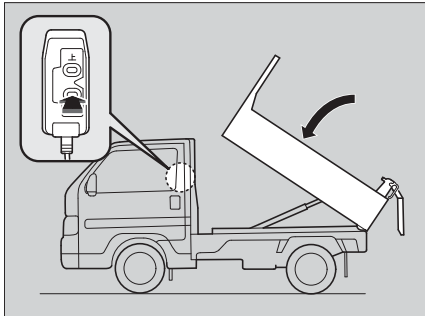
フレーム鳥居、大型鳥居、浅底

荷台を上昇させると自動的にテールゲートが開きます。

ダンプジュニア、清掃

テールゲートを倒す、または開く場合はダンプ操作を行う前にしてください。

■ 降ろしかた



リモコンスイッチの「下」を押します。

- ▶ 押している間、下降します。途中で手を離せば、その場で停止させることができます。

▣ 降ろしかた

⚠ 注意

荷台を下降させるときは、周囲の安全を十分確認してから行う。

特に荷台とボディの間に指などはさまないように注意してください。

フレーム鳥居、大型鳥居、浅底

⚠ 注意

下降操作はテールゲートと荷台の間に物がはさまっていないことを確認してから行う。
物がはさまっていると、テールゲートが閉まらず、走行中などにものが落下するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

安全棒や安全支柱を使用した場合は、それらを確実に外してから、下降させてください。

荷台がいっぱいまで下降した後は、「下」を押し続けしないでください。

アドバイス

リモコンスイッチは連続して30秒以上押し続けしないでください。

パワーユニットが加熱し、故障の原因になります。またバッテリーの劣化にもつながります。

リフター装置使用時の注意

アクティリフター

プラットフォームの昇降操作を誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあります。次のことをお守りください。

- 坂道での昇降操作はしない
 - ▶ 坂道では車や荷物が不安定になり、転倒や落下等思わぬ事故につながるおそれがあります。昇降操作は必ず平坦な場所で周囲の安全に十分注意して行ってください。
- プラットホームに乗って昇降操作しない
 - ▶ プラットホームに人を乗せたり、乗ったまま昇降操作をしないでください。転倒や落下など思わぬ事故につながります。
- プラットホームを降ろす前に、プラットフォームの作動範囲内に人や障害物がないことを確認する
- 手や足をはさまないように十分注意する
- お子さまには操作させない
- プラットホームを倒したり、降ろした状態での車の移動はしない
 - ▶ リフトや車両が破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 連続の昇降操作はエンジンをかけて行う
 - ▶ エンジンをかけないで行うと、バッテリー上がりの原因となります。
- エンジンをかけた状態で昇降操作をするときは排気管の後方に立たない
 - ▶ やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- 車庫や屋内など換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしない
 - ▶ 車内や屋内など排気ガスが充満し一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- 道路上でプラットフォームを倒して作業を行う場合は停止表示板などを設置する
 - ▶ プラットホームを倒したときに、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯や尾灯などが、後方の車両から確認できないおそれがあります。

- プラットホーム格納時は左右のフックをかけ確実に固定する
 - ▶ 走行中にプラットフォームが倒れ、積荷が落下し思わぬ事故につながるおそれがあります。

■積載物について

- 最大リフト荷重を守る

最大リフト荷重: 350kg

- ▶ 最大リフト荷重を超えての昇降操作は、装置の故障の原因になるばかりでなく、プラットフォームが勢いよく下りるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はプラットフォームの中央に載せる
 - ▶ できるだけプラットフォームの中央に載せ、荷崩れしないように積んでください。
- 昇降操作をするときは荷物を固定する
 - ▶ 重いものをプラットフォームに載せると車は後ろ下がりになります。台車等、車輪の付いているものや倒れやすいものは、輪止めをしたり、固定するなどして落下防止をしてください。

リフター装置の使いかた

アクティリフター

エンジンスイッチが **I** または **II** のとき、プラットフォームの昇降操作が行えます。昇降装置はバッテリーを原動力に使用します。バッテリーの劣化を防ぐため、連続して昇降操作を行うときはエンジンをかけた状態で行ってください。

降ろしかた

共通操作

1. パーキングブレーキをかける。

マニュアル車

2. チェンジレバーを N (ニュートラル) に入れる。

オートマチック車

2. セレクトレバーを **P** に入れる。

共通操作

3. エンジンを始動する。

リフター装置の使いかた

知識

リフター V (垂直式)

このリフターは構造上長期間の使用の際にプラットフォームが若干右下がりに傾く場合があります。

左右の高さの差が5mm以上発生した場合は、Honda販売店でワイヤー調節を行ってください。
調整の目安：昇降操作約10,000回ごと

リフター W (アーム式)

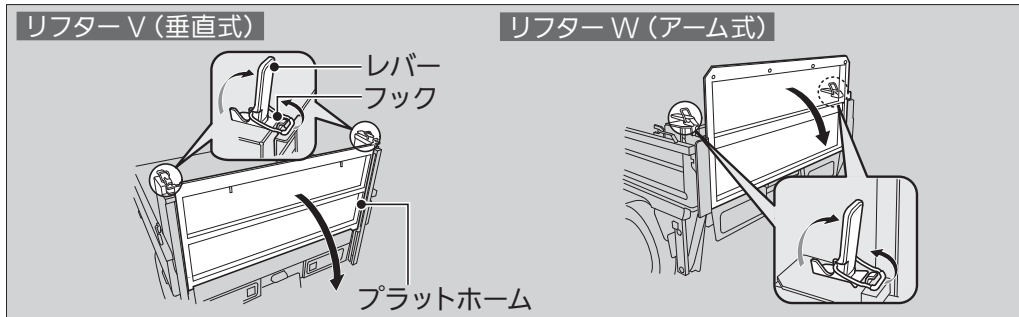
このリフターは油圧回路の構造上、長期間の放置後にフックを外すとプラットフォームが数cm下がる場合があります。

長期間の放置後は、フックを外す前にリモコンスイッチの **上** を1~2秒押しして油圧を上げてからフックを外してください。

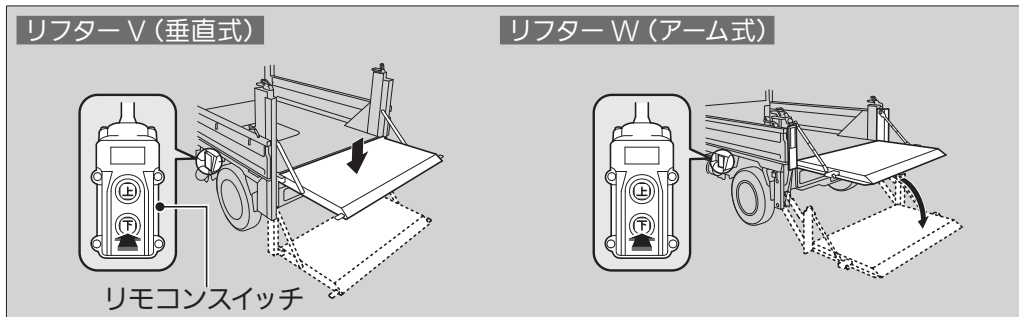
アドバイス

フレームにロープをかけたり、強い力を加えないでください。

フレームが曲がり、昇降不良など故障の原因になります。



4. プラットホームを手で押さえながら、左右のレバーを引き上げてフックを外す。
5. プラットホームが止まるまで静かに倒す。



6. リモコンスイッチの「下」を押す。
 - ▶ 「下」を押している間、プラットホームは下降します。途中で手を離せば、その場で停止させることができます。

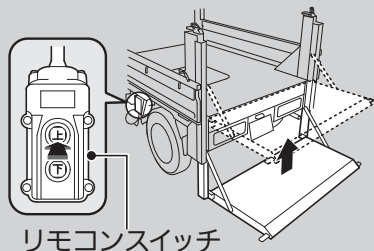
※ 降ろしかた

知識

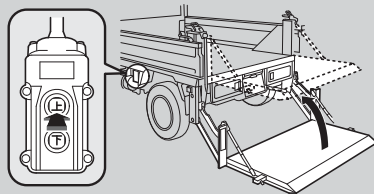
プラットホームがいっぱいまで下降した後は、「下」を押し続けしないでください。

■ 上げかた

リフター V (垂直式)



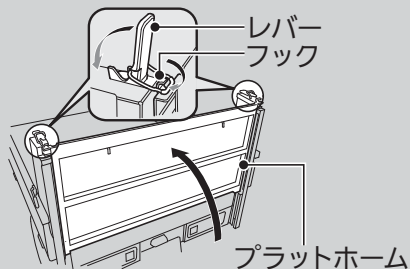
リフター W (アーム式)



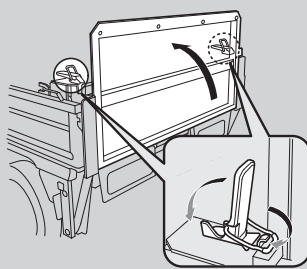
1. リモコンスイッチの **上** を押す。

▶ **上** を押している間、プラットフォームは上昇します。途中で手を離せば、その場で停止させることができます。

リフター V (垂直式)



リフター W (アーム式)



2. 完全に上昇したらプラットフォームを立ち上げる。

3. 左右のフックをかけ、レバーを倒して固定する。

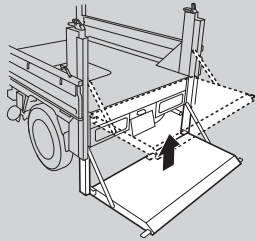
▶▶ 上げかた

知識

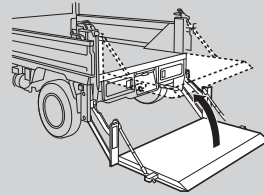
プラットフォームがいっぱいまで上昇した後は、**上** を押し続けしないでください。

■ 手動格納のしかた

リフター V (垂直式)

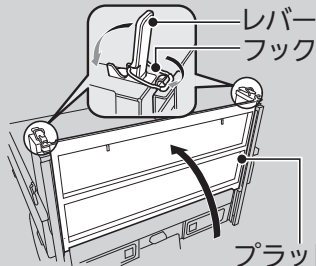


リフター W (アーム式)

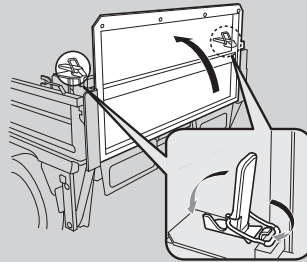


1. プラットホームをいっばいに持ち上げる。

リフター V (垂直式)



リフター W (アーム式)



2. プラットホームを立ち上げる。
3. 左右のフックをかけ、レバーを倒して固定する。

☒ 手動格納のしかた

⚠ 注意

プラットホームは確実にフックで固定する。
 プラットホームは持ち上げた状態では固定されません。プラットホームが落ちてけがをしないように確実にフックで固定してください。

固定した後はフックを外さない。

フックを強制的に外すとプラットホームが勢いよく飛び出しけがをすることがあります。

必ず Honda 販売店で点検を受ける。

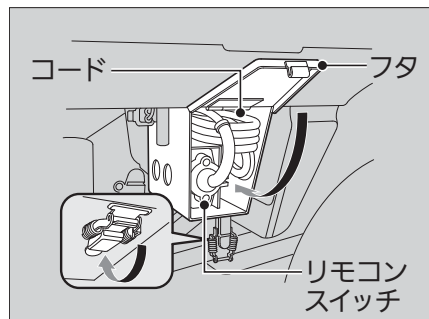
その際には、手動で格納したことを必ず販売店へお伝えください。

プラットホームに指などはさんだりしないように、十分注意する。

知識

プラットホームは重いので、一人では作業が困難な場合があります。プラットホームが持ち上がらないときは、無理をせず Honda 販売店へご連絡ください。

■ リモコンスイッチボックス

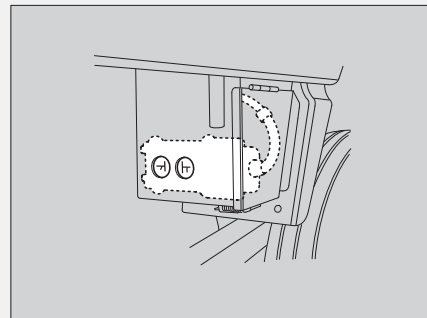


リモコンスイッチを下側に、コードを上側に格納します。格納時には、フタを閉めてロックしてください。

▶▶ リモコンスイッチボックス

知識

リモコンスイッチはスイッチボックスに格納した状態で、スイッチを操作することができます。



アドバイス

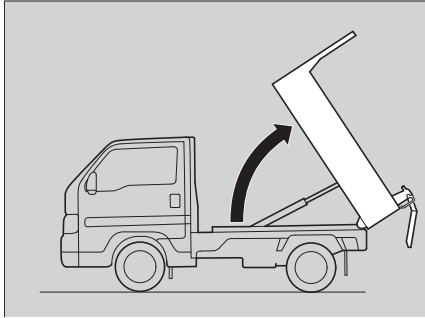
リモコンスイッチは、連続して30秒以上押し続けしないでください。

バッテリー上がりや故障の原因となります。

安全装備

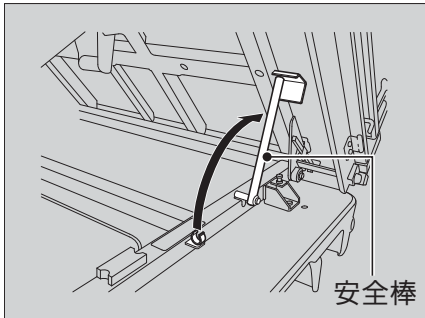
アクティダンプ

安全棒



■ かけかた

1. 荷台をいっぱいまで上昇させる。



2. 床面より安全棒を立ち上げ、荷台裏面の溝に安全棒を差し込む。

3. 安全棒の先端が荷台裏面に当たるまで、荷台を静かに下降させる。

※安全棒

⚠ 注意

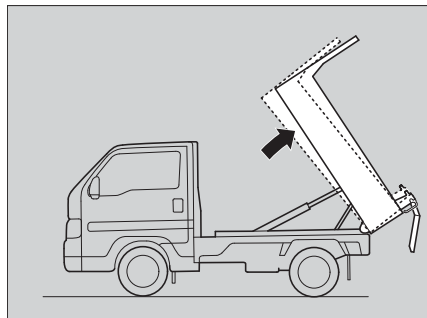
水洗い、点検や整備などで荷台を上げているときは、必ず空荷の状態で行い、安全棒を使用する。

安全棒は必ず荷台と接触させて使用する。

点検・整備などを行うときは、安全棒と共に安全支柱も確実に使用する。

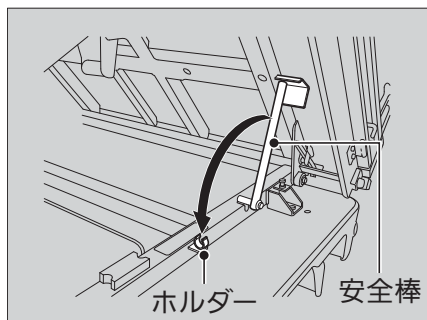
知識

安全棒を使用する場合は、平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけて、輪止めするなど、車を確実に固定してください。



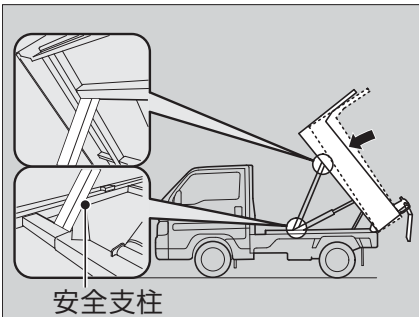
■外しかた

1. 安全棒の固定が解除されるまで、荷台を上昇させる。



2. 安全棒をホルダーに固定して、荷台を下降させる。

■ 安全支柱



■ かけかた

1. 荷台をいっぱいまで上昇させる。
2. 安全支柱を図の位置にかけ、荷台が安全支柱に当たるまで下げる。

■ 外しかた

1. 安全支柱が外れるまで、荷台を上昇させる。
 - ▶ 支柱の倒れなどに注意してください。
2. 安全支柱を外し、安全棒をホルダーに固定して荷台を下降させる。

◇ 安全支柱

【知識】

安全支柱には、断面が5cm角以上の堅木やその相当品で、強度に十分余裕のあるものを使用してください。

安全支柱を使用する場合は、平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけて、輪止めするなど、車を確実に固定してください。

必ず安全棒も併用してください。

点検整備時の注意点

アクティダンプ

- 点検整備のときは、安全棒、安全支柱を確実に使用する
- 水洗い、点検や整備などで荷台を上げるときは、必ず空荷の状態で行う
- 水洗い、保守点検などで荷台の下に入る場合は、安全棒を必ず使用する
 - 安全棒 P.21
- 整備を行うときは、安全棒と共に安全支柱も確実に使用する
 - 安全支柱 P.23
- 点検や整備のとき、床面の油圧ホースを踏んだり、傷つけたりしないように十分注意する

点検整備方式

アクティダンプ

点検整備項目			点検整備時期			
			日常点検	6ヶ月ごと	12ヶ月ごと	24ヶ月ごと
油圧関係	パワーユニット	異音の有無	○	○	○	○
		油もれの有無	○	○	○	○
		取付ボルトゆるみ			○	○
	シリンダー	油もれの有無		○	○	○
		取付ボルトゆるみ		○	○	○
		接手	○		○	○
油圧ホース	油もれ・ヒビ割れ・干渉	○	○	○	◎	
メカニズム	アーム、ローラー部	変形		○	○	○
		ボルトのゆるみ		○	○	○
		異音の有無		○	○	○
	ボディブラケット	変形		○	○	○
	ヒンジブラケット	変形		○	○	○
電気関係	配線	干渉、クリップ不良			○	○
	リモコンスイッチ	接触、切換不良	○	○	○	○
その他	サブフレーム	変形		○	○	○
		取付ボルトゆるみ			○	○

※ 異常のある場合には Honda 販売店にて修理を受けてください。

○印：点検

◎印：交換

アクティリフター

点検整備項目		点検整備時期				
		日常点検	6ヶ月ごと	12ヶ月ごと	24ヶ月ごと	
油圧関係	パワーユニット	オイルの漏れ	○	○	○	○
		異音	○	○	○	○
		取付ボルトゆるみ			○	○
	シリンダー	オイルの漏れ	○	○	○	○
		異音	○	○	○	○
	油圧配管と接続部	オイルの漏れ	○	○	○	○
		配管の傷、接続部のゆるみ ^{※1}			○	○
	配管、ホースの傷、接続部のゆるみ ^{※2}			○	○	
リフター関係	フレーム	取付ボルトゆるみ			○	○
		変形	○	○	○	○
	プラットホーム	開閉作動部のガタ、変形、傾き	○	○	○	○
	固定フック	ガタ（固定状態にて）、変形	○	○	○	○
	ワイヤー ^{※1}	ホツレ、折れ、曲がり、変形（給油、グリース）		○	○	○
チェーン ^{※2}	変形、損傷		○	○	○	
電気関係	配線	損傷、たるみ			○	○
	接続部	接続部のゆるみ			○	○
	スイッチ	接触、外傷	○	○	○	○

※1：リフターV（垂直式）

※2：リフターW（アーム式）

※ 異常のある場合には Honda 販売店にて修理を受けてください。

■ 油圧ホースの点検と交換

アクティダンブ

ホースは耐久性、耐外傷性を考慮しておりますが、ゴム質の特性上長期間経過しますと経年変化により劣化するため、破損しやすくなりますので、2年毎に新品と交換してください。

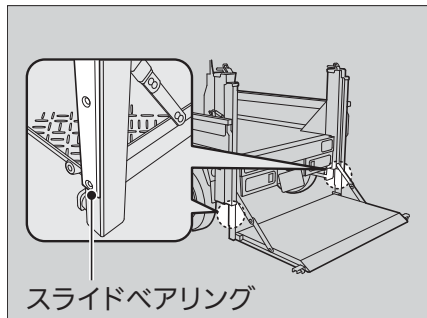
なお、日常点検時及び車検の際には、ホースに付着した泥・塵埃などをふきとり、ホースの外周面・湾曲部分・取付金具付近の亀裂・局部的フクレ等、外部損傷の有無を調べ、異常がある場合は、ただちに Honda 販売店で交換してください。

■ アーム、ローラー部の給油

アクティダンブ

ローラー部から「ギーツ」という異音が生ずるときは、防錆潤滑スプレーなどで給油をしてください。

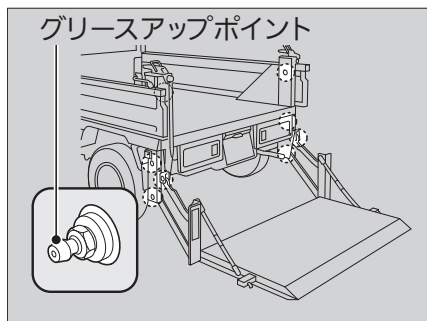
■ 給油・グリースアップについて



リフターV(垂直式)

グリースアップは、スライドベアリングに定期的(3ヵ月ごと)に行ってください。

その他の回転部分などで異音が発生したときは、給油してください。



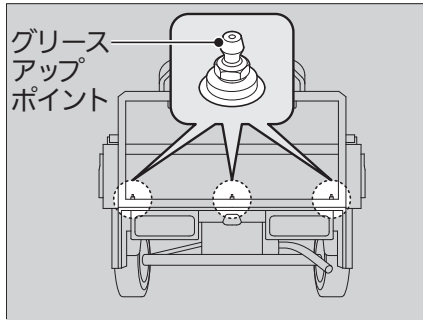
リフターW(アーム式)

グリースアップは、グリースアップポイントに定期的に行ってください。

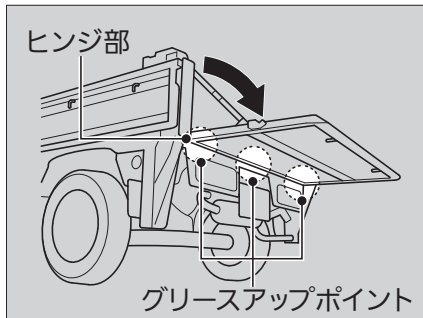
その他の回転部分などで異音が発生したときは、給油してください。

■ プラットホーム、ヒンジ部のグリースアップ

プラットホーム、ヒンジ部へのグリースアップはグリースアップポイント（3ヶ所）に定期的（1年ごと）に行ってください。



1. プラットホームを立ち上げた状態で、各グリースアップポイント（3ヶ所）にグリースポンプなどで数回給油する。



2. プラットホームを倒して、同じように給油する。
3. ヒンジ部からはみ出たグリースを拭き取る。

■ 洗車について

パワーユニット、リモコンスイッチ* およびプラットホーム* への高圧洗浄はさけてください。

非常時のけん引

アクティリフター

ACTY TRUCK オーナーズマニュアルに記載してある後部のけん引フックは、リフターを架装しているため取り外してありますのでけん引はできません。

ダンプ操作ができないとき、プラットホームが昇降できないとき

ダンプ操作ができないときや、プラットホームが昇降できないときは、バッテリーを点検してください。

バッテリーがあがっていないときは、エンジンスイッチを \square にして、ヒューズや電球が切れていないか確認します。

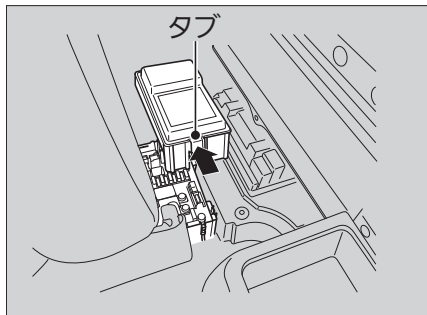
※非常時のけん引

アドバイス

フレームにロープをかけたり、強い力を加えないでください。

フレームが曲がり、昇降不良など故障の原因になります。

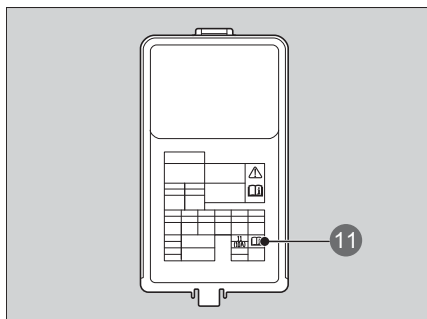
■ヒューズの点検と交換



■運転席下のヒューズボックス

運転席をいっぱいまで前に出し、背もたれを前に倒すとあります。

タブを押して開けてください。



■ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
11		パワーユニット	10A

ヒューズの点検と交換の詳細は、ACTY TRUCK オーナーズマニュアルをご覧ください。ヒューズが切れていないのに、ダンプ操作ができない、またはプラットホームが昇降できないときは装置の故障が考えられますので、Honda 販売店で点検を受けてください。

▶ アクティリフター

プラットホームが降りたままのときは手動で格納してから Honda 販売店へご連絡ください。

☑ 手動格納のしかた P.19

☑ ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。同じ規定容量のヒューズがない場合は、規定容量の小さいヒューズに交換してください。交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda販売店で点検を受けてください。

仕様

■ ダンプ装置

アクティダンプ

最大積載量 (kg)	350	
ダンプ最大角度	55度	
ダンプ上昇 (下降) 時間	15秒以内 (常温)	
操作方法	昇降はダンプスイッチ操作	
シリンダ	ラム式	
電動機	直流 直捲式 DC12V	
リリーフバルブセット圧 (MPa[kgf/cm ²])	15.7(160) ^{※1}	
	16.7(170) ^{※2}	
作動油	指定液	ISO VG32 相当
	規定量 (ℓ)	2.0 (交換時)
	推奨交換時期	1年ごと

※1: ダンプジュニア

※2: フレーム鳥居、大型鳥居、浅底、清掃

■ リフター装置

アクティリフター

最大リフト荷重	350kg	
上昇時間 (無負荷時)	6~10秒 (常温時) ^{※3}	
	7~11秒 (常温時) ^{※4}	
下降時間 (無負荷時)	8~12秒 (常温時) ^{※3}	
	9~14秒 (常温時) ^{※4}	
パワーユニットオイル	推奨オイル	ISO VG46相当
	交換時期	12ヶ月ごと
	規定量 (交換時)	0.7ℓ ^{※3}
0.8ℓ ^{※4}		

※3: リフター V (垂直式)

※4: リフター W (アーム式)

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。

Honda ホームページ <http://www.honda.co.jp/>

(Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください)

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。

<http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/>

※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QR コードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センター
でもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010^{イフレイオ}

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、車両番号、登録年月日
- ② 車種名、タイプ名、走行距離
- ③ ご購入年月日
- ④ 販売店名